KSKP まねき猫通信　87 ひきめ　　第３種郵便物承認　通巻 8382 号　2009 年 10 月 2 日発行　（1）

編集人：ぶくぶくの会　〒 564-0025 吹田市南高浜町 1-17-2A（総務）
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail：so-mu@puku-2.com URL：www.puku-2.com
代表：馬垣安芳　編集長：上田かおり　1 部 200 円
年間購読料：個人会員 2000 円　広報会員（３部）5000 円
法人会員 1 口（5 部）10000 円　賛助会員（1 部）10000 円
振替口座 00940-0-161341
「まねき猫通信」

一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認　毎日発行

まねき猫通信

87 ひきめ

題字：
塩澤 文男
（しおざわ・ふみお）

もくじ

座談会①：「差別とバリアの時代を生きて」　2
リレーエッセイ「ろう者にFAXで連絡するという事」ー森本菜穂子　4
「民主圧勝」の衝撃とメディアの報道ー石塚直人　5
吹田の生き物と人⑲-クズ（葛）ー　高畠耕一郎　6
北摂市長N氏の悩み-再び北摂市役所にて①ー　西川たけお　6

秋のごちそう
絵：西　つばさ

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

民主党が圧勝して、衆議院で３０８議席の巨大与党になった。あまりにも非道かった「小泉・安倍・福田・麻生」の8年間、民主党の選挙コピー通り「国民の我慢も限界」に達した証だ。しかし、政権交代という「激動」に感動がない。ましてや歓喜の情など沸かない。変わったのは政治家の顔ぶれで、根本的に生活が良くなる予感もない▲投票率は69％、そのうち民主党の得票率は45％。有権者三割の支持で64％の議席を得た地滑り的勝利は小選挙区制度の賜物であって、決して民主党の「実力」ではない。今回の交代劇は「民主の勝利」ではなく「自民・公明連立政権」の瓦解で成ったにすぎない…と、政権党の諸君は肝に銘じているだろうか▲「国民の生活が第一」と謳うなら、格差社会の元凶『労働者派遣法』を解体すべきだ。『障害者自立支援法』に変わる法律を制定し、改悪された『教育基本法』を元に戻す。何よりも「小選挙区制度」そのものを廃棄する…だろうか？▲冤罪や不当労働行為の被害者、沖縄の米軍基地被害の当事者、参政権のない定住外国人、先住権を奪われたアイヌ民族、幾百万の生活保護世帯ーー「限界で我慢」しつつ生き抜いている人々の声は、どこに届くのだろう？　（パギ）

座談会

今、問う「障がい者の自立とは？」①

差別とバリアの時代を生きて

楠　敏雄
河野秀忠
牧口一二

関西の障がい者運動草創期を創り、30年に渡って引っ張り続けてきた楠敏雄さん、河野秀忠さん、牧口一二さんの座談会をお届けします。個性豊かな3人が、何に怒り、どこでつながり、何が違うのか？また、今後の障がい者運動にとって何が必要なのか？語って頂きました。支援制度も何もなく、あるのはバリアーと差別だけというなかで、仲間と出会い、社会と全身で格闘し、今、自立とは何か？を問いかけます。（文責・編集部）

運動の原点

入部（編集部）：3人の方が、合流したのは養護学校義務化反対運動（78年阻止共闘結成）だそうですが、各々どういうきっかけで障がい者運動に入っていったのか？聞かせて下さい。

牧口：70年代の中頃といえば、ボクはやっとこさ仕事に就き、なんとかデザイナーとして仕事も順調になってきた時期でね。この頃、障害児が親に殺されるという事件が頻発したんよね。子どもの将来を悲観した親が自らの手で子どもを殺すのです。これが無念でしょうがなくて、なんとかしたいと思ったのが動機で障害者運動に。

当時のボクは、障害者の「役立たず、」「厄介者」というマイナスイメージを変えていけば、肉親による子殺しも少なくなるのではないかと単純に発想していました。

楠：僕は、１９６４年に盲学校から大学に入って2年くらいは、「健常者に負けずに頑張るんだ」と、点字の辞書を繰りながら、徹夜も厭わず必死に勉強していました。でも自分の努力だけではどうやっても突破できないバリアーがあることを思い知らされます。日常的な差別にも直面し、「こんなに勉強したって何になるのか？」と、むなしさを感じていました。そんな時、学生運動が始まり、大学批判を始めます。彼らの主張に共感をおぼえ、デモに参加したのですが、デモの学生が驚いて、「危ないですから、脇に寄ってください」と言われました。大学解体を叫ぶ連中でも障がい者を排除するのか！と、失望しました。僕は、その後も全共闘として学園改革運動や部落解放運動など様々な社会運動に参加しますが、そうした社会運動の中ですら障がい者が排除されていく現実を見て、徐々に障がい者運動に重点が移っていきました。

あからさまな差別

入部：この半世紀、3人の方々は、何を求めてきたのでしょうか？また、何が変わったのでしょうか？

楠：73年、京都・三条京阪に歩道橋ができて、「これで交通渋滞が緩和されて便利になる」とニュースでも大きく取り上げられました。でも、車イスの障がい者は歩道橋なんて利用できないんです。「便利」といわれる歩道橋は、障がい者を全く無視したものなので、これを問い直そうと、なかま30人位で歩道橋に横断幕を広げ、登り口には車イスを並べて通れないようにして、抗議したことがあります。この抗議行動も新聞で大きく取り上げられました。我々の行動が世間に小さな波紋を投げかけたのです。

この行動について「障がい者が社会に迷惑をかけることをしたらイカン」と批判する人もたは何なのか？働くことの意味を考え、今も考え続けています。

「さよならＣＰ」の上映運動は成功しましたが、ヘルパー制度なんて影も形もない時代ですから、施設や家庭から出たいという障がい者の介助と運動でバタバタ忙しく動き回りながら、優生保護法反対運動（74年）、養護学校義務化阻止闘争(79年)などに取り組みました。

牧口：ボクも学生運動の影響は受けています。高校で別棟の図書館にバリケードを張ったりしました。学生自治会の議長をやっていたので「安保反対」を叫んだりしてね。でも、その当時、安保に反対するのは90％以上で、賛成する5人くらいの小グループがいて、こいつら凄いなと思ったのを覚えてるな。

河野：ボクは、70年安保闘争の敗北後、障がい者のＯさんと出会い、72年に共同でドキュメンタリー映画・「さよならＣＰ」の上映運動を始めたのが最初です。ですから、ボクの中にはまず「社会を変える」というのがあって、その革命に接近する方法を模索している時に、障がい者運動に出会ってしまいました。当時のボクには、「福祉」という考え方はなく、階級闘争と人権のために闘うという立場でした。

ところが「愛と正義を否定する」という辛辣な行動綱領を掲げて登場した「青い芝の会」（脳性マヒ者当事者組織）の運動は、それまでの価値観をひっくり返すほどのものでした。彼・彼女らの生き方に触発されながら、もう一度、平等と

▲4人が出会ったのは、1970年代後半。以降、30年以上の親交が続いているそうです。

差別に気づくことの大切さ

入部香代子

楠さん、河野さん、牧口さんに、色々お聞きしてきました。私は、障がい者運動に出会い、良くも悪くも逞しくなりました。「青い芝の会」に入って、人間はみんな自分の利益しか考えないのかと思ったことがありました。他人のことを考えない組織だなと、私はそれが嫌で、「なんてところに入ったんだろう」と、真剣に悩んだこともありました。

そんな時、活発に意見を言い活動している役員の男性障がい者と話す機会があり、思っていることを全部吐き出しました。するとその人は、「団体にいれば団体のことを考えるし、自分一人であっても自分のことを考えるのが普通だよ」と、意外な返答でした。その後に「その中に、かよちゃんもいるんだからね」と言われ、「私は（みんなの為）（社会を変える為）と信じてここまで一緒に動いてきたのに」と言うと、「その為には自分の差別性を知り、仲間を増やすことだ。そんな時にはきれいごとを言っていられない。もっと現実を見て欲しい。こうしている間にも僕らの仲間が殺されるのだ」と言われ、考えるより手段を選ばず行動することが、障がい者に対する差別をなくすことになるのか、と思い直し再び動き出しました。

その人は私に、「人は誰も意識的に差別する訳ではないが、人を自分より下に見ることで、心の安定を求めたり格好いいものに憧れたりする。その心が、差別や偏見を生み出し『優性思想』をつくり出すのだ」と言いたかったのだと思います。また、自分を良く知るということは、自分が障がい者で、差別される側であって、する側ではないことを自覚し、闘わなかったら本当の意味で差別はなくならないと、教えてくれたのだろうと思います。

私は幼い時から、「寝たきりでないからいいね」「知能が普通でよかったね」など言葉をかけられ、私はいい方なのだと思ってきました。だから、寝たきりの障がい者を見ると、私の方が人間らしいと優越感に浸っていました。それが嫌で自分が嫌いになり、何とかしてここから脱出しなければと、長い間思ってきました。自分との闘いです。苦しいですが差別に気付けたことは幸せだと思っています。差別の根は深いけれど、差別に気付いた時に自分が障がいをもつ少数の立場で考えているのか、すぐに分かることです。障がい者運動に出合えて本当によかったと思います。

▼ 楠　敏雄さん

▼ 牧口一二さん

▼ 河野秀忠さん

くさんいましたが、「こんな障がい者排除を許してはいけない」という怒りを抑えることができなかったし、こうした一つ一つの行動が、社会を変えていったのは間違いありません。

牧口：あの当時は、障害者を念頭に置かないで「便利になる」といういい方が、本当に多かった。ボクが暮らしている大阪でも、「地下鉄が延長決定！この地域が便利になります」というビラを撒いた市会議員がいました。でも駅にエレベーターがつかなければ、障害者は蚊帳の外です。さっそく大阪市交通局に出かけて、「障害者にとって本当に便利になるのか？」「そのためにはエレベーターが必要だ」とエレベーター設置要求運動を始めました。

無視との闘い

河野：当時、障がい者は、みんな施設か家庭に閉じ込められていました。その彼・彼女らが街に出た途端に、あからさまな差別や大きなバリアーにぶつかるわけです。だから「車イスを乗せろ！」とバスを止めたりするのは、過激でも何でもなくて「当たり前やろ」と思っていました。

当時はまだ革新勢力も比較的強かったのですが、こうした社会状況と障がい者の置かれた状況に大きな違いがありました。障がい者が街に出ると、一歩も前に進めない現実にブチあたったので、抗議をしただけです。その抗議が直接的であまりにも当たり前すぎたので、逆に過激に見えてしまっただけだと思います。

それでも、こういう行動は本当に楽しかった。みんな手柄のたてあいのように競い合い、自分たちのことを自慢しながら、闘っていました。無視と闘っていたのです。

楠：障がい者権利条約でいうところの「間接差別」が、至る処に蔓延していました。障がい者を差別して排除するという「直接差別」ではなく、障がい者が全く眼中になく、存在すら見えないから結果として排除するという時代だったと思います。

牧口：それがボクも一番腹が立った。人間にとって無視されるほど屈辱的なことはないよね。喧嘩なら買えるけど、相手にもされてないわけだから。

楠：僕が、大学の授業でノートを取るために点字を打っていると、教授が「そこでコツコツ音をたてて遊んでいるのは誰だ！」って、怒られたことがあります。その教授は、僕の目が見えないことがわかっても、点字というものを知らないので、叱り続けました。

また、裁判闘争で傍聴に行って白い杖を持っていたら、「旗竿と一緒だから預かります」と取り上げられたこともありました。「杖は、視覚障がい者にとって体の一部だ」と説明してもダメでした。そんな時代でした。

河野：あの時代は、ヘルパー制度もエレベーターもスロープも全く何もなかった。あるのは、バリアーと差別だらけ。だから、文句を言い、行動すると、ちいさくても何らかの成果を勝ち取ることができた時代だったと思います。そうした充足感はありましたね。

（つづく）

当事者リレーエッセイ

ろう者にFAXで連絡するという事

森本 菜穂子

仕事の関係で、小学校、中学校、高校、大学など手話講習会や講演に行く事が多い。その時、相手に打ち合わせの連絡や講演の日時や内容などをFAX送信していただくようお願いしている。しかしほとんどがFAXではなく、電話で済ます事が多いのである。

学校関係の人、は手話の講師をろう者にお願いしているにもかかわらず、電話で済まそうとしたのは「ろう者にFAXで連絡する」という意味がわかっていないと思う。健聴者同士だと電話で連絡するのは当たり前だが、ろう者にはFAXで連絡するという事がまだ浸透していない現実がある。

ろう者は「口」の人

だが、電話だと私がいる時は内容を確認できるので構わないが、仕事が忙しくていない時は、職場の同僚が「電話があったよ。」と言ってくれなければ、電話があった事さえ知らない。また、職場の健聴者は全員手話ができると思っているのだろうか？ 残念ながら全員手話が達者というわけではないし、それぞれ担当も違うので、電話だけで内容を把握して私に伝えるという事は簡単ではない、と想像するのが自然ではないか？ まして、内容の詳細を知らない為に勘違いして間違った情報を伝えられて、話がかえってややこしくなった事もある。

だから、職場の健聴者には、「もし私に電話があった時は申し訳ないけれど、切ってもらうか、またはFAX送信するようお願いしてある。なぜなら聴者は耳の人で、ろう者は目の人で

私は必ず「電話ができないからFAXにて連絡を下さい」と前もって言う。それでも電話で済まそうとするのは、多分相手は忙しくて時間がないので、つい電話で用件を済まそうと思ったのかもしれない。また、私の職場には健聴者の職員がいるので、電話で用件を言って私に伝えてもらえばいいと思ったのかもしれない。

いが、仕事が忙しくていない時は、職場の同僚が「電話があったよ。」と言ってくれなければ、電話があった事さえ知らない。また、職場の健聴者は全員手話ができると思っているのだろうか？ 残念ながら全員手話が達者というわけではないし、それぞれ担当も違うので、電話だけで内容を把握して私に伝えるという事は簡単ではない、と想像するのが自然ではないか？ まして、内容の詳細を知らない為に勘違いして間違った情報を伝えられて、話がかえってややこしくなった事もある。

だから、職場の健聴者には、「もし私に電話があった時は申し訳ないけれど、切ってもらうか、またはFAX送信するようお願いしてある。なぜなら聴者は耳の人で、ろう者は目の人で

全国的な日照不足や長雨などの影響で出荷量の落ちた野菜が値上がりしていることを受けて、農林水産省は、価格が上がり続けた場合でも安定的に供給するために、「規格外として処分される野菜の出荷を生産者に求める方向で検討に入る」と発表しました。このような動きは、台風で農作物に大きな被害を出した2004年以来実に5年ぶりだとか。

そもそも規格外野菜とは一体何なのでしょうか。野菜というのは大きさ、色や形、品質などといった市場規格により振り分けられているのですが、曲っている、キズがついている、色が薄い、太さが足りないといった理由で、定められた規格にあてはまらない野菜のことを総称として規格外野菜と呼んでいます。一部はカット野菜や加工食品として流通しているものの、そのほとんどは店頭に並ぶことなく廃棄処分されているというのが日本の生産・流通の現状みたいです。その廃棄率は生産量の約4割にも達するということを皆さんはご存知だったでしょうか。日本の食糧自給率は約40％しかありません。食べることができるのに規格に合わないというだけで大量に廃棄されている現実を知っておくべきと思います

し、また私たち消費者の「見た目の美しさで商品の良し悪しを判断する」傾向そのものを見直さなければならないのかもしれません。日本にやってきた外国人が「どうして日本の野菜はどれも同じ形なの？きれい過ぎて怖いよ」と洩らしているとか。確かに奇妙な光景なのかもしれませんね。

しかし、規格外野菜をできるだけ処分せずに有効利用していこうという動きが全国的に広がりつつあるようです。農林水産省が目指しているただ単なる供給量の確保だけにとどまらずに、「無意味な食料廃棄を無くして、日本の生産・流通の仕組みを抜本的に見直していこう」と、各地の道の駅や農産物直売所などに、正規品だけでなく規格外野菜などを持ち込んで直売している生産農家が増えているそうです。また規格外野菜を積極的に使用して、加工食品や缶詰などの商品化に取り組んでいる農家さんもあるとか。第一次産業の農業自体が廃れていく背景の中で、このような元気な農家さんが増えていくことは嬉しい限りですし、また自然に育っている野菜に対して、規格を設けることと自体何か間違っていると素直に思うので、どんな野菜でも普通に流通されるような世の中になっていってほしいものです。

安心できる食生活を手にするために

広がりつつある 規格外野菜の見直し

関西よつ葉連絡会・淀川産地直送センター 奥野和夫

パギやんこと趙博　10月

秋のツアー

声 体文藝館とは、文学、映画、歌謡、語り芸…様々なジャンルの素材を取り入れ、ピアノの生演奏に合わせて演じる一人芝居です。パギやん独自の表現世界をご堪能ください！

東京　両国・シアターX
- 24日『青春の門・筑豊編』　第64回　文化庁芸術祭参加公演①　19:00 ～
- 25日『泥の河』　同上②　15:00 ～

名古屋　大須・七ツ寺共同スタジオ
- 26日『泥の河』　19:00 ～
- 27日『青春の門・筑豊編』　19:00 ～

大阪　神山町・レインドッグス
- 29日『青春の門・筑豊編』　19:00 ～
  ☆ゲスト：ふちがみとふなと
- 30日『砂の器』　19:00 ～
  ☆ゲスト：おしどり
- 31日『泥の河』　19:00 ～
  ☆ゲスト：姉さまキングス

☆ピアノ：ハルマ・ゲン
☆司会&スタンダップコメディ：ナオユキ

●入場料●
【一　般】前売り・３５００円　当日・４０００円
【ペアチケット】前売り・６０００円　当日・７０００円
※「お１人２回」「お２人１回」…組み合わせは自由です。
【3日間通し券】７５００円

詳細・連絡先
http://fanto.org
コラボ玉造［TAMAZO］
FAX ： 06-6731-1699